

# 7 平塚宿

宿は駅前ではなく600m程西側  
5300 08:38



**本陣** 右側が本陣加藤家があった所。神奈川銀行の所で  
**1軒** 今の平塚2丁目。繁華街から少しはずれている。

脇本陣 1軒



J R 平塚駅



七夕祭の準備中

平塚の繁華街の銀座通り 江戸の頃の宿の入口は駅前から600m程西の市民センターの所で、両側に見附の土塁が築かれていた。明治に入って駅が出来今の東の方へ中心地が移ってきた。



本陣の説明板の石碑



右の角が問屋場があった所で、この先は旧道がまだ残っている。



見附の土塁があった所。ここが昔の宿の入口で説明板がある。  
町名に見附町の名が残っている。

宿内人口

2114人

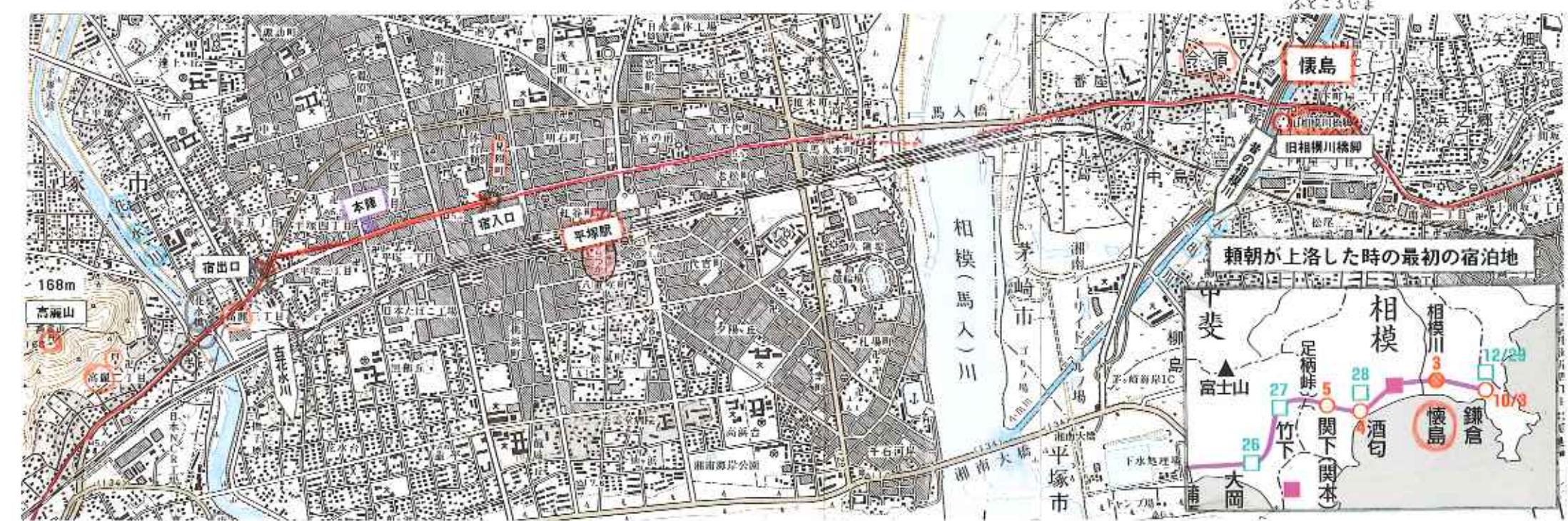
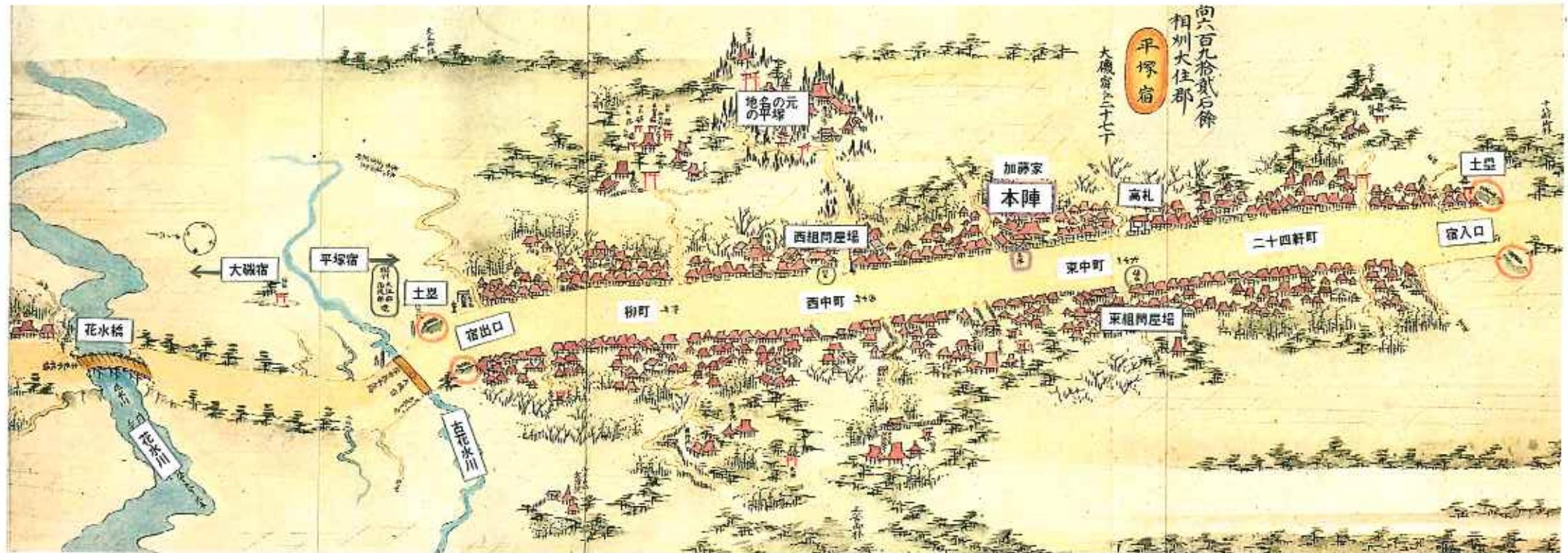
総家数

443軒

旅籠

54軒

大2軒 中29軒 小23軒





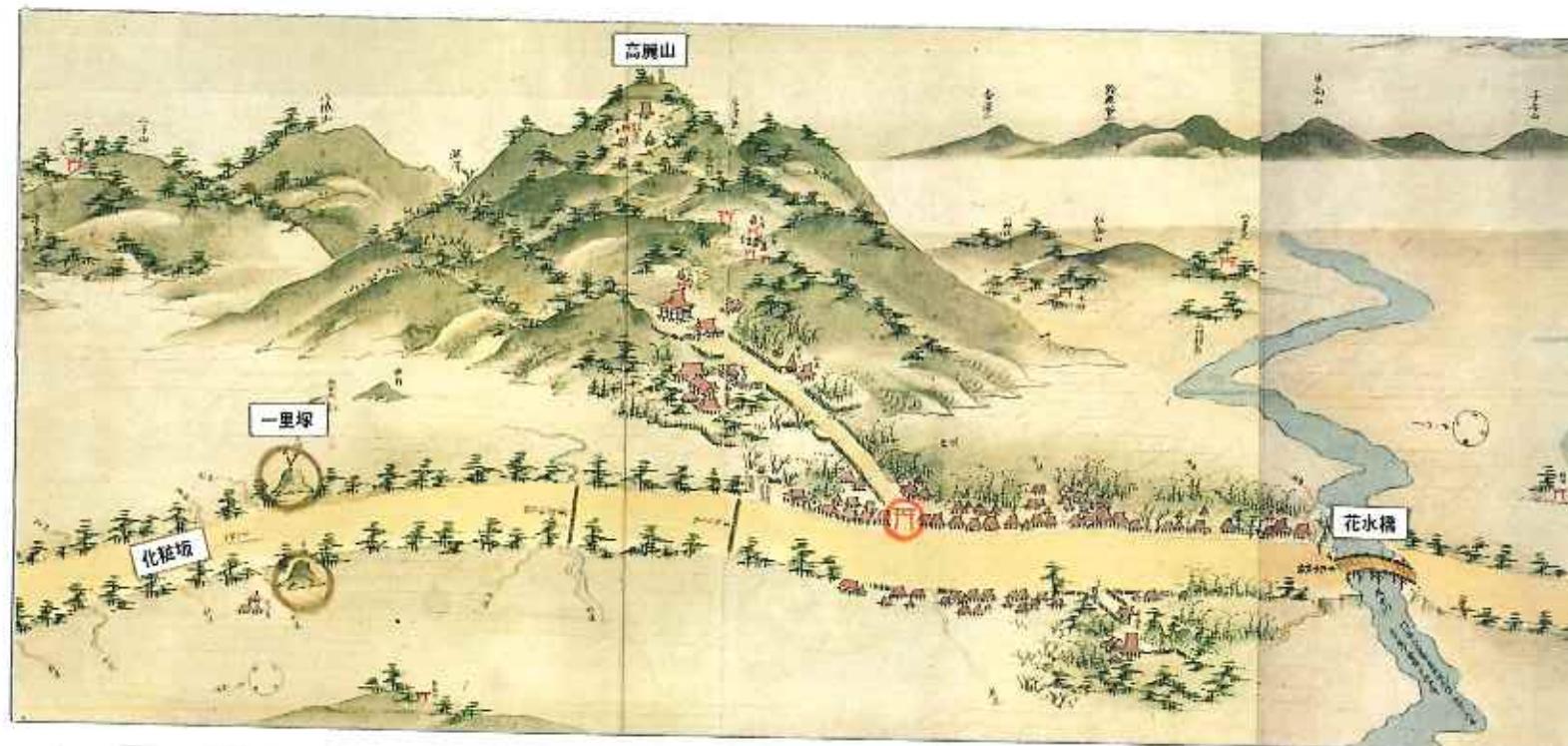
花水川と高麗山 老舗から渡来した人達によって付けられた名の山で、海拔168mある。



広重の五十三次の平塚の絵



ここはまだ昔の平塚宿の内で「柳町」といっていた所。今の平塚3・4丁目。



飛鳥時代末期から奈良時代の初期にかけて朝鮮半島から移住してきた渡来人達がここに住み集落を開いた。山には高麗権現が祀られている。

寛永2年（716）相模ほか6ヶ国の渡来人達1799人が埼玉の高麗郡に移された。



松並木が続き街道らしい雰囲  
気が残っている。



化粧坂を振り返って見る。手  
前が大磯宿側。



大磯宿場まつりに使われた媽



日本橋から 66 km。東京方  
面を振り返って見る。古い茅  
葺の家がまだ残っていた。



化粧坂のバス停 この辺は鎌倉時  
代には遊女屋が多くあり、坂の名  
もその名をとったと思われる。  
鎌倉にも同じ名の坂がある。



1号線から分かれて化粧坂に入る。  
旧道が残っている所。

# 8 大磯宿

高麗からの渡来人の本拠地



**本陣** 右側の路地の奥が地福寺で本陣が参道をはさんで2軒建っていた。左の絵にもその様子が描かれている。  
**3軒** 手前が小嶋家で向かいが尾上家だったが、今は標識も  
**脇本陣 0軒** なく知らないと通りすぎてしまう。



**鷗立庵** 平安時代末期、西行法師がここで歌を詠んだのが初まりで、のちに芭蕉をはじめ多くの歌人がここで歌を詠んだ。今でも俳諧道場があり俳句の会が続いている。



J R 大磯駅



大磯名物の和菓子店



左の絵の折れ曲がっている所の現在の様子。真っすぐ行くのが旧道で、右が国道1号線。

宿内人口

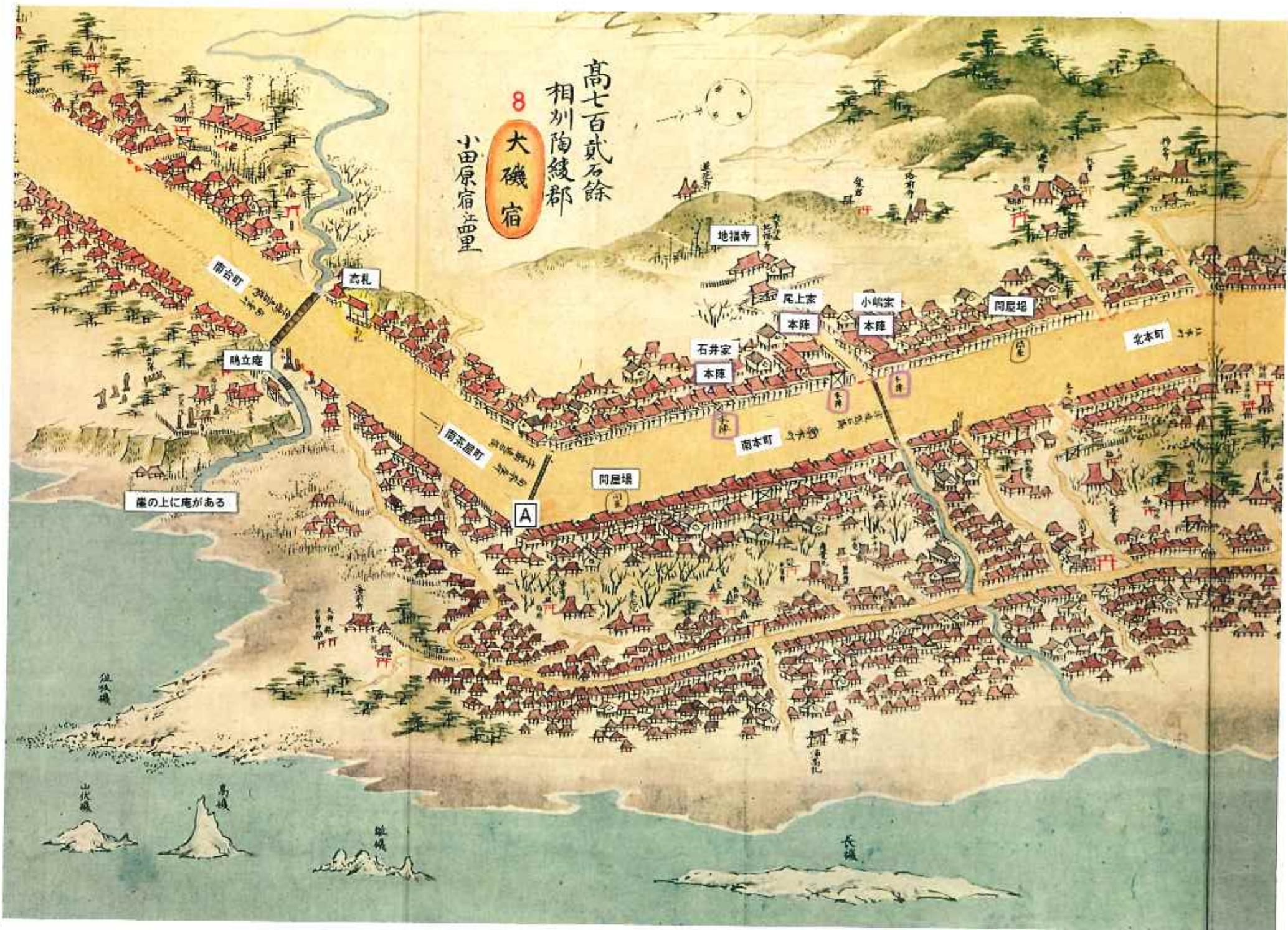
3056人

総家数

676軒

旅籠  
66  
軒

大  
中  
小  
5  
19  
42  
軒  
軒  
軒





国道から左に入ると旧道が残っていて押切坂をすぎると、すぐに又国道と合流する。押切川の手前。



国道1号線を右へ入る道が旧道。右側の森の中には大磯町郷土資料館がある。左が海側で大磯ロングビーチがある所。



大磯宿を出て小田原へ向う。  
小田原宿まで約4里（16km）



押切川を渡り小田原市に入る。



振返って見る。左へ入ると二宮駅。  
二宮は間の宿と呼ばれ旅籠があり、高札場も建てられていた。



西小磯のあたりは街道らしい松並木が続いている。



酒匂川 丹沢山地を水源として相模湾へそぞぐ全長27・2kmの2級河川。橋が架けられたのは明治維新後。



山王川を渡って小田原宿へ入る。右側の奥に土星の見附があり、木戸と番所が置かれていた。



川辺本陣 大見寺の向い側にあり今は社会福祉法人「ゆりかご園」になっている。



酒匂村 ここは、古代の官道の「小総」駅とされる所で頼朝の上洛の際の宿泊地ともなった。鎌倉時代の東海道の宿駅だった所。



国府の外港の跡 右に入ると国府津駅。ここは、古代の相模国の国府が最後に移った地とされている所で、①海老名②伊勢原（諸説あり）③国府津と移ってきた。「小総駅」をこことする説もある。



江戸より19里目(76km)の一里塚。

10月4日  
晴

## 9 小田原宿

後北条氏5代百年の城下町で難所の箱根峠への入口



高梨町（本町2・3丁目）町の中に旧町名の標識が多く建てられている。



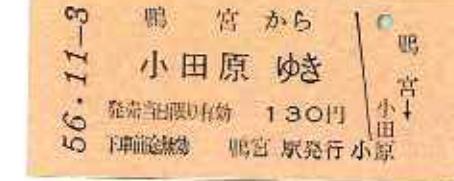
町の中心地 本町



本陣 4軒 本陣の清水家。庭に明治天皇の泊まった行在所の碑がある。  
脇本陣 4軒



かまぼこ店の「籠清」



宿の入口 江戸口見附といい小田原宿の東の入口。



本町から旧道の西方向を見る。

宿内人口	5404人
総家数	1542軒
旅籠	95軒
大	17軒
中	31軒
小	47軒



東海道沿いの箱根口門の石垣。



室町時代に大森氏によって築かれた小田原城は、その後明応4年（1495）北条早雲が入城し5代100年にわたり栄えたが、秀吉の小田原攻めで終りをつけた。その後徳川の代になり現在に続いている。



宿の出口　ここで宿が終わり右に折れて箱根へ向う。樹形になっていて真直ぐ行く道はなかった。



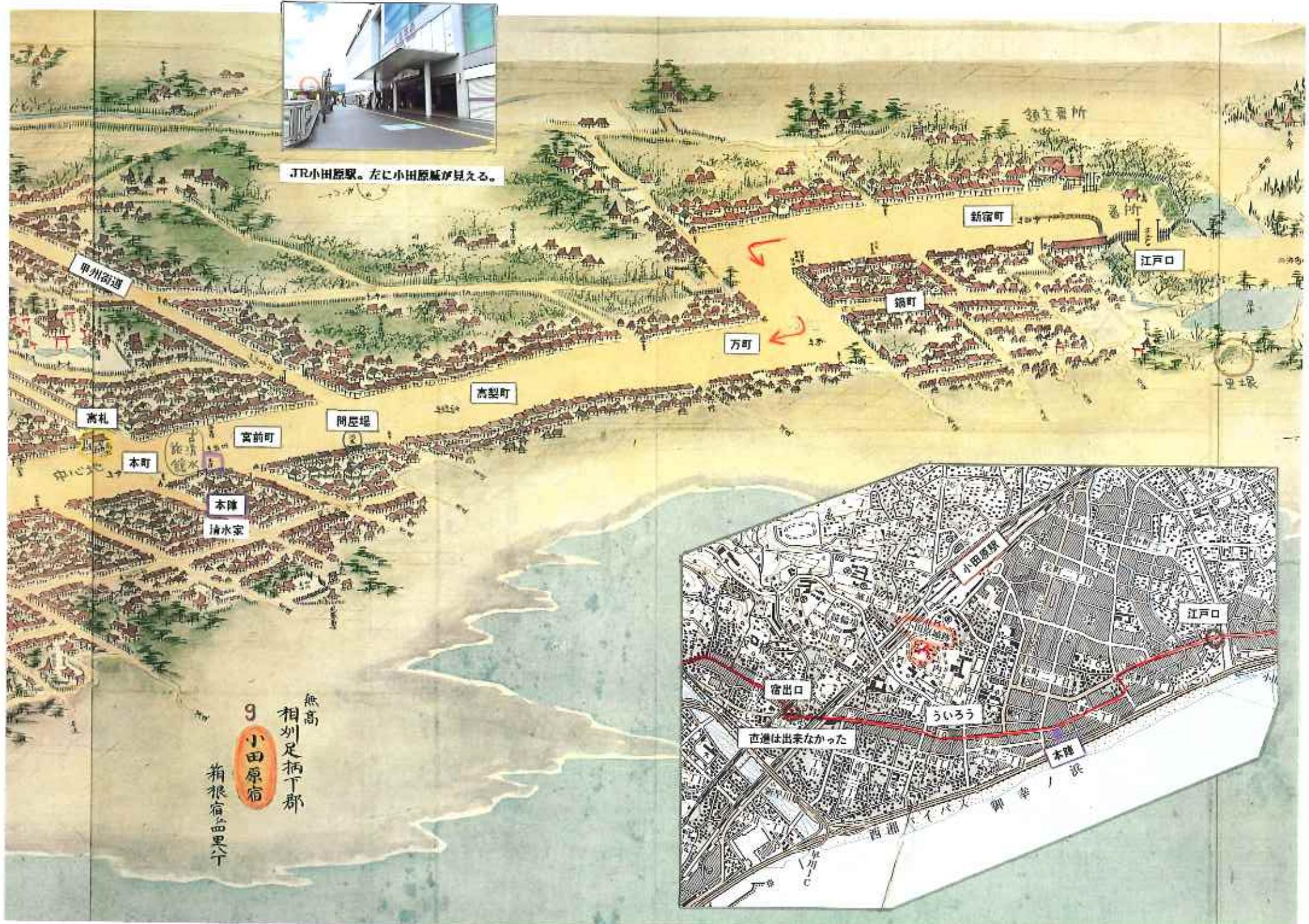
『東海道名所図会』にある「外郎」の店。  
元は「透頂香」という薬を売っていた。



小田原城天守閣



右は「外郎」の店。小田原城を模した立派な店構えが目につく。







畠宿本陣跡

「若荷屋」の名の本陣があった。



旧街道の石畳が続く上り道。



寄木細工で知られる畠宿の出口。ここから又石畠の道に入る。



畠宿は宿駅ではなく、間の宿で茶屋が多く休憩所の立場であった。

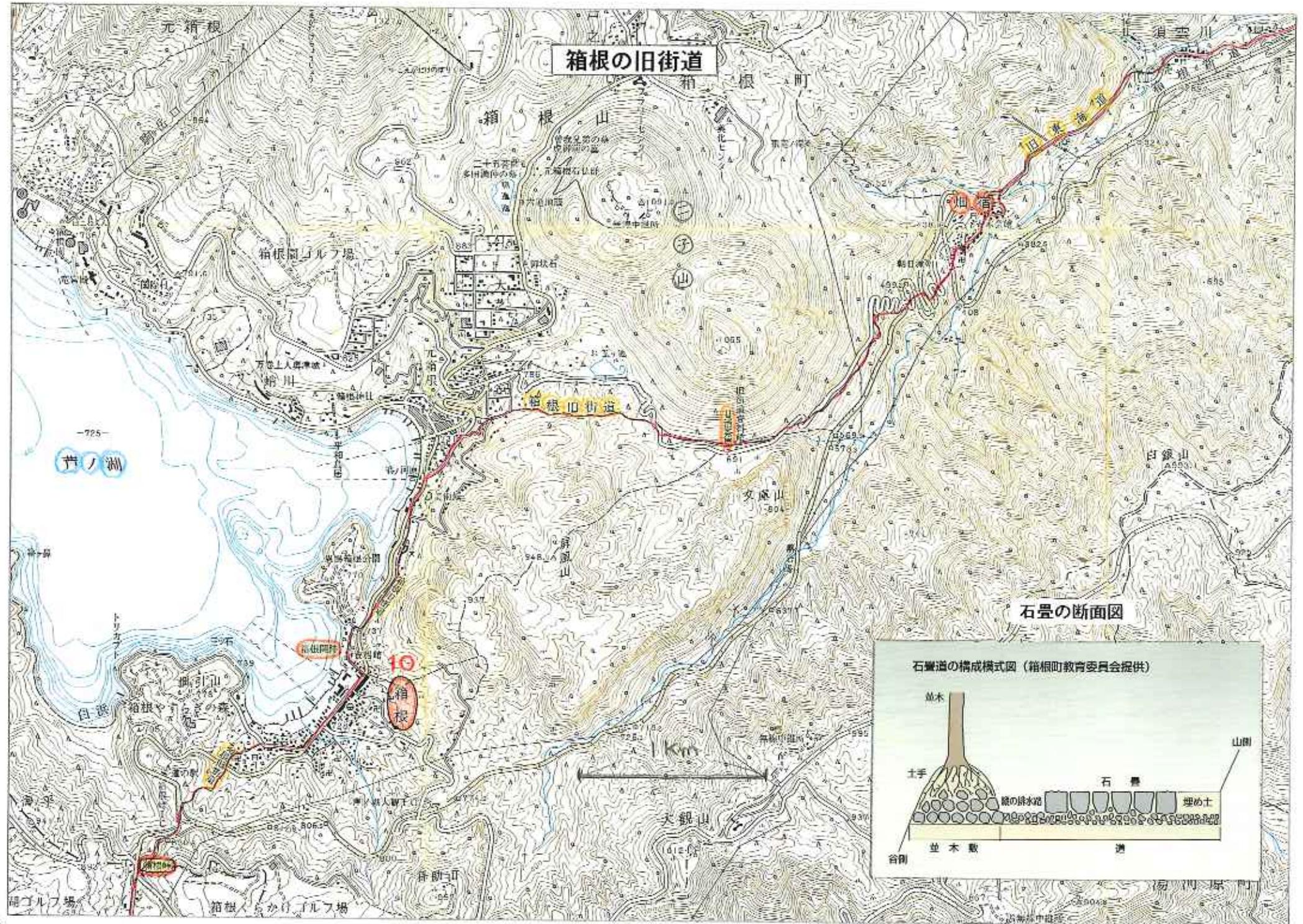


早雲寺

戦国時代の永正16年（1519）2代北条氏綱が父早雲の遺命により建てた禅宗の寺。小田原北条氏の初代早雲とその5代の墓がある。北条早雲は、名を伊勢新九郎といい駿河の今川の家臣だった人で北条5代100年の基礎を築き88才まで生きた。



畠宿へゆく旧道





文久3年（1863）改修された道。  
元箱根まで40分の所。



甘酒茶屋 昔の旧道はこの茶屋の裏を通っている。



先に芦の湖が見えている。



ここは笠が平といい茶屋が4軒あったが、今は上の写真の1軒のみ残っている。親鸞上人が東国からの帰りここで笠（背負いのつづら）をおろして休憩したので付いた名といわれている。二子山のふもと。



猿滑坂 猿もすべるという急坂。



追込坂 甘酒茶屋の少し手前の坂。



大正11年史跡として指定された。



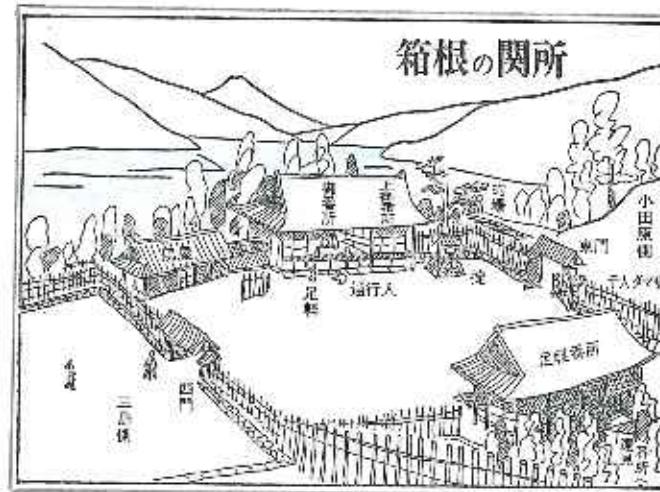
関所の入口 右が番所で、左は足軽番所があった所で今は資料館になっている。



日本橋から24里目(96Km)  
の芦の湖の近くの一里塚跡。



当時使われていた駕籠。



関所は元和5年(1619)置かれ通行の取締りをここで行い、特に「入鉄砲に出女」といわれる江戸への武器の持ち込みと大名の人質の妻達が国元へ逃げ帰らない様見張った。  
明治2年(1860)廃止された。



旧街道の杉並木が続く。

# 10 ≪箱根宿≫

芦ノ湖のほとり、関所があつた宿



左側に本陣が1軒あつた。右が芦ノ湖



本陣 6軒  
脇本陣 1軒

右側の箱根ホテルは、旧名三島町の本陣「はふや」の跡で全部で6軒あつた本陣内の5軒がこちら側にあつた。



幕末の頃の箱根宿 F・ペアト撮影

箱根宿は、江戸時代前期の元和4年（1618）小田原と三島の両方の宿から各50軒づつを移住させて出来た宿場で、小田原町・三島町の名が宿内にある。  
関所は、その翌年に出来た。



明治後期の箱根宿 関所の方向を撮った写真。左が芦の湖。

宿内人口

844人

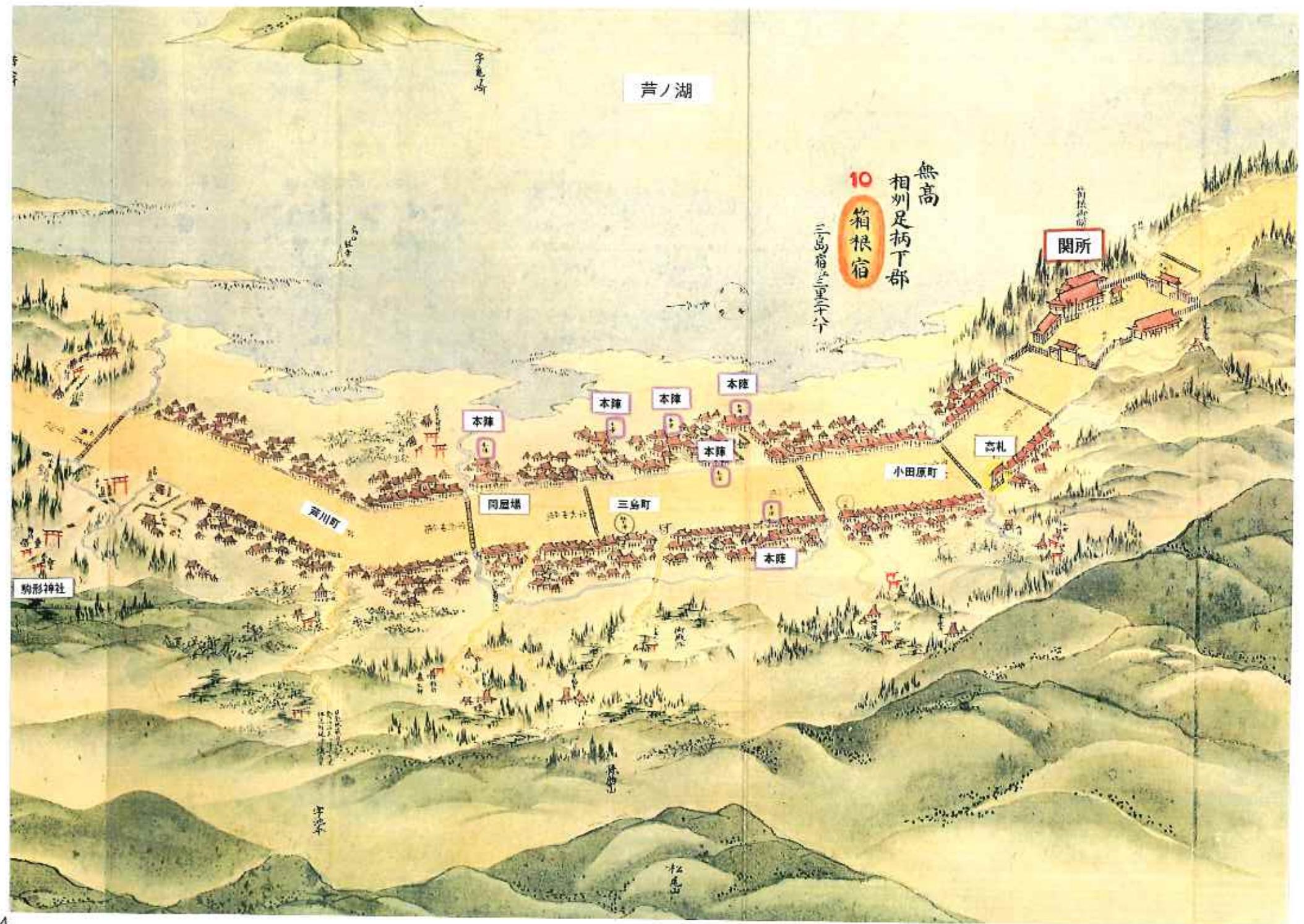
総家数

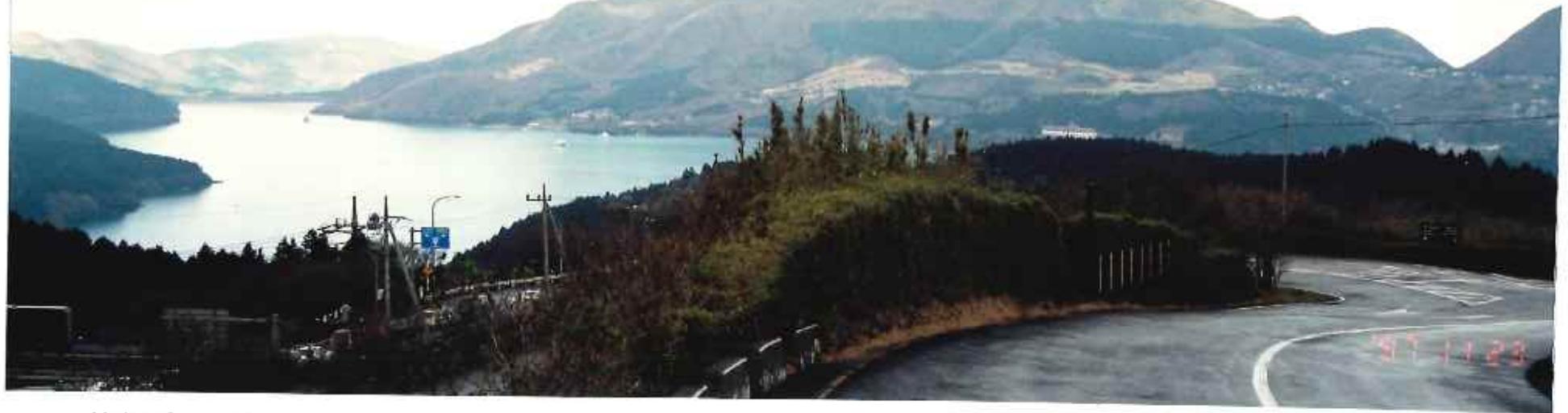
197軒

旅籠

72軒

大23軒  
中20軒  
小29軒





箱根峠 標高 846m

箱根宿を出て見晴らしの良い箱根峠へ出る。  
ここから三島宿まで長い下り坂が続く。



ほとんど人が通らない竹やぶの旧道を  
進む。これが東海道かと思わせる様な道。



石洗坂 石畳の旧道が続く。



いよいよ余り人が通らない様な竹やぶ  
の旧道に入つてゆく。この先を“ばら  
か平”という。



錦田一里塚

江戸から 28 番目 (112 km) の塚。



山中城跡をすぎて市の山をゆく。

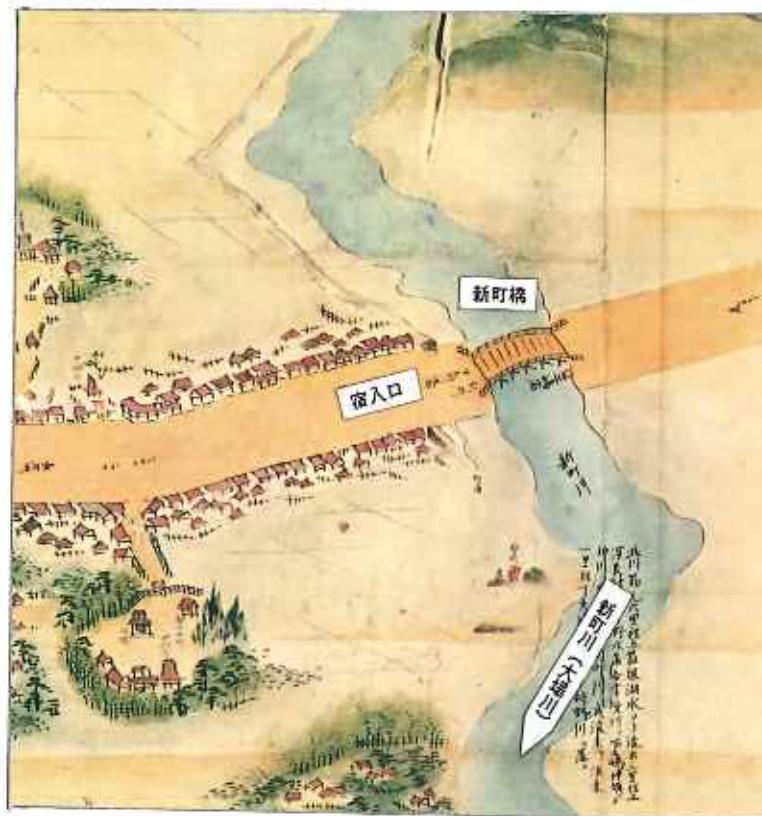


山中新田の石畳の旧道を下る。



新町橋

大場川の橋を渡り三島宿に入る。



東京から 108 km の標識

# 11 《三島宿》

伊豆国の国府があった所で、下田街道の分岐点



JR三島駅



三島神社 伊豆国の一の宮で延喜式の式内社。奈良時代には創建されていた古社。源頼朝を始め、小田原北条氏や家康からも崇敬を受けた。現在の社殿は慶応2年（1866）再建されたもの。



**本陣 2軒** 橋口本陣の跡で現在はお茶屋になっている。  
向かい側が世古本陣。

脇本陣 3軒



▲三島宿復元模型

## 千貫樋

伊豆と駿河国の国境の境川に架かる灌漑用水。戦国時代の天文24年（1555）引かれたという。駅前の楽寿園から水を引き駿河の地域をうるおした。

宿内人口

4048人

総家数

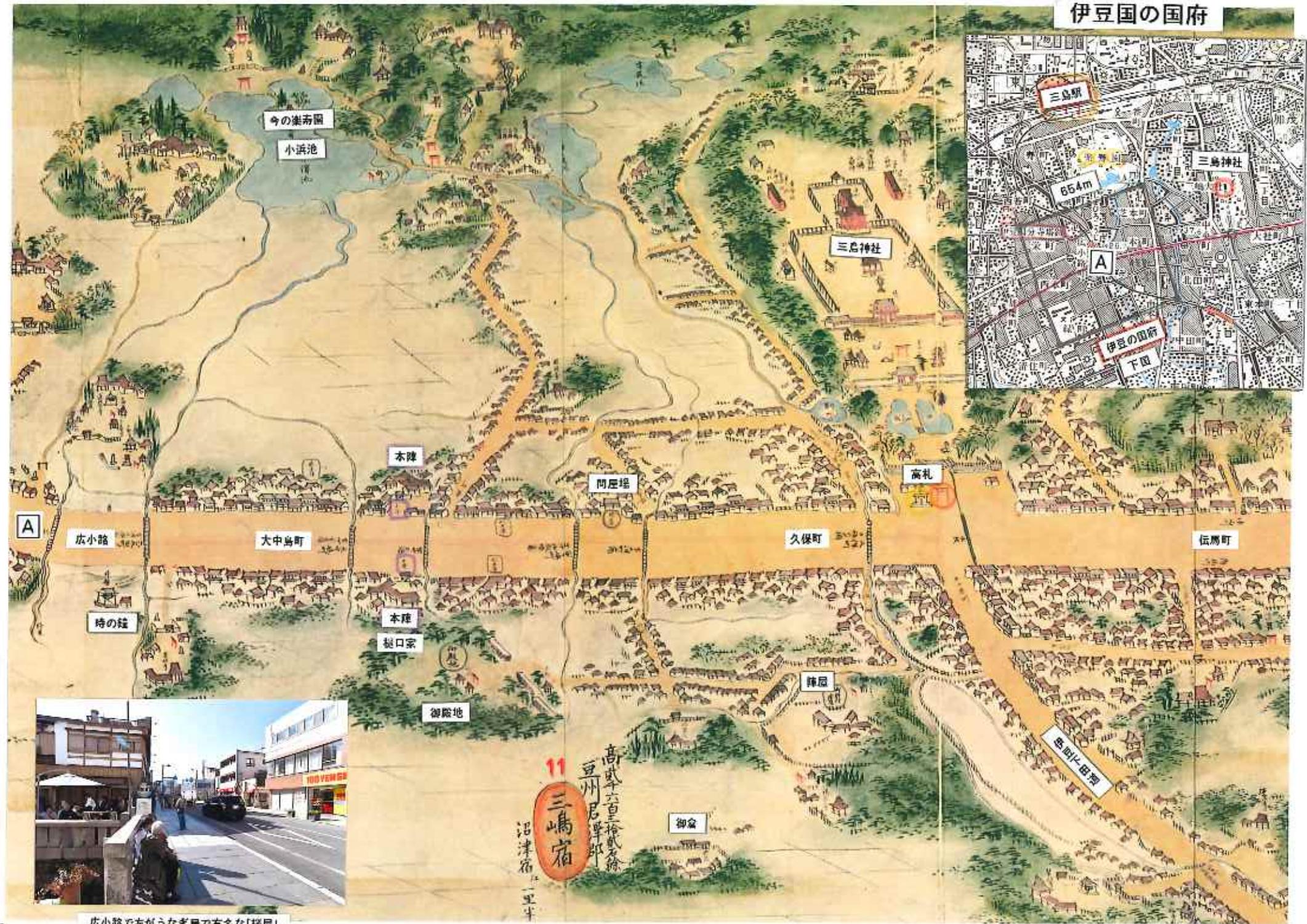
1025軒

旅籠

74  
軒

大 8 軒  
中 19 軒  
小 46 軒

# 伊豆国の国府



# 黄瀬川宿の話

沼津市黄瀬川

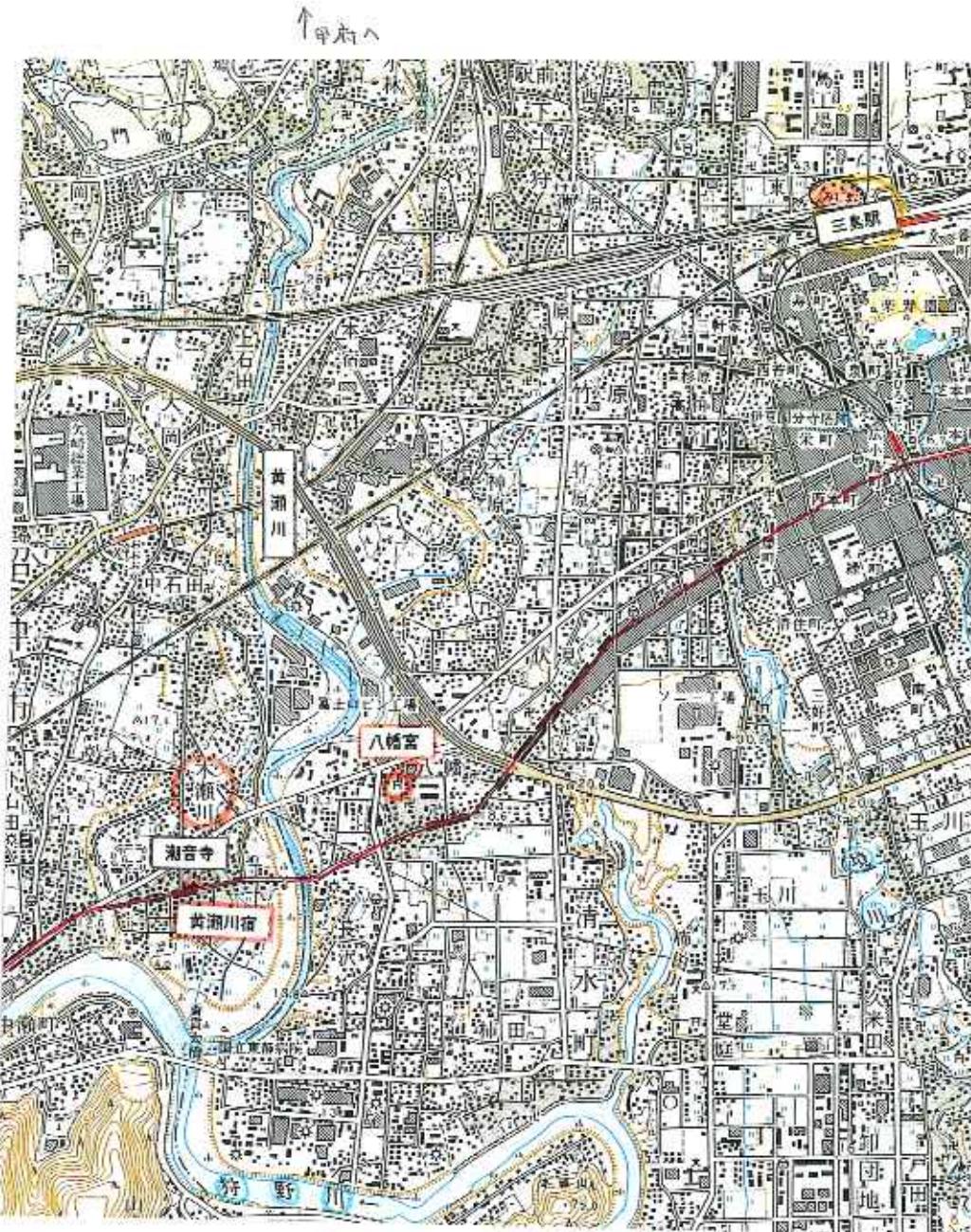
黄瀬川治いの中世の宿駅で、御殿場から足柄峠や甲州への分岐点としても栄えた。源頼朝と義経がここで対面した。



黄瀬川橋：中央の森が「対面石」のある八幡宮。  
振り返って見る。



黄瀬川宿の中心部。左が潮音寺。

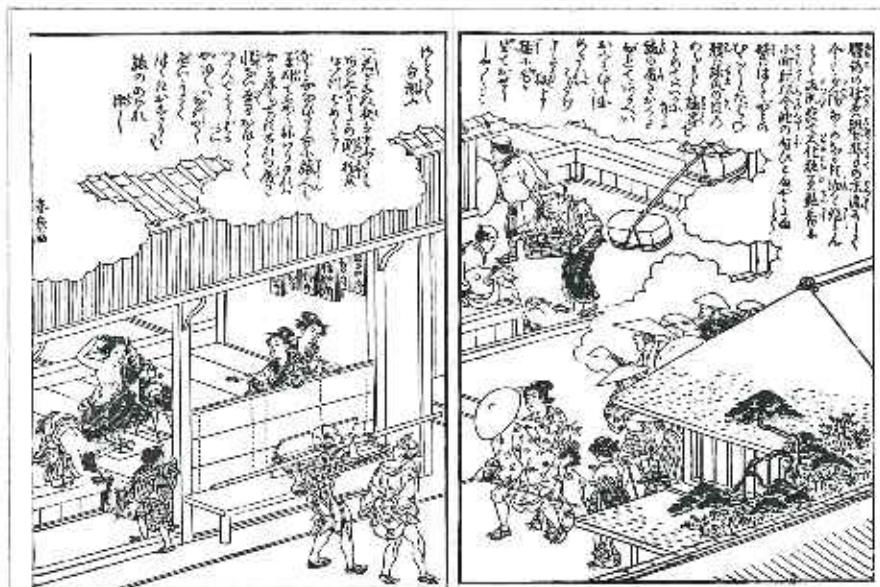




頼朝と義経が対面している絵 『東海道名所図会』



源頼朝が鎌倉幕府を開く前の治承4年（1180）10月21日  
ここで義経と対面した。元はここの奥の神主さんの屋敷にあった  
ものをここへ移したのだそうだ。



黄瀬川宿の様子 旅人が宿泊する様さそわれている。左には遊女  
が身づくろいをしていて、にぎやかな様子が描かれている。



左が旧道で右は1号線の分かれる所。  
沼津市中瀬町。



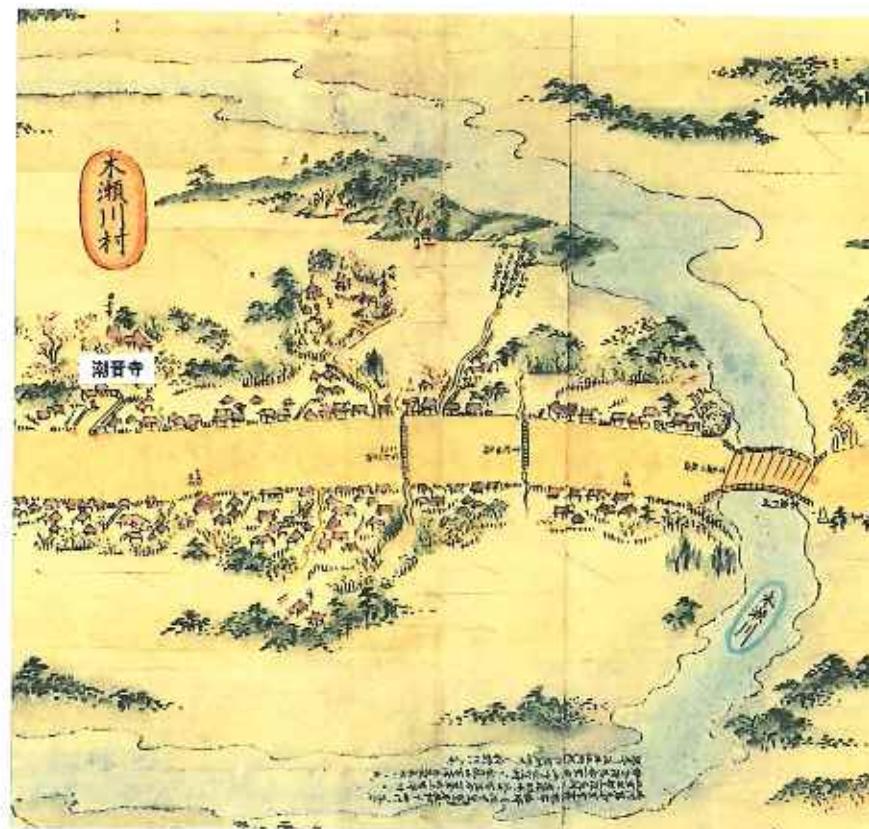
木瀬川橋 橋を渡って昔の木瀬川村に入る。ここから沼津市に入る。



三島宿を出て西へ進む。



江戸から30里目(120km)  
の一里塚で樅が植えてある。  
沼津市平町。



昔の長沢村で松並木が少し残っている。

## 沼津城

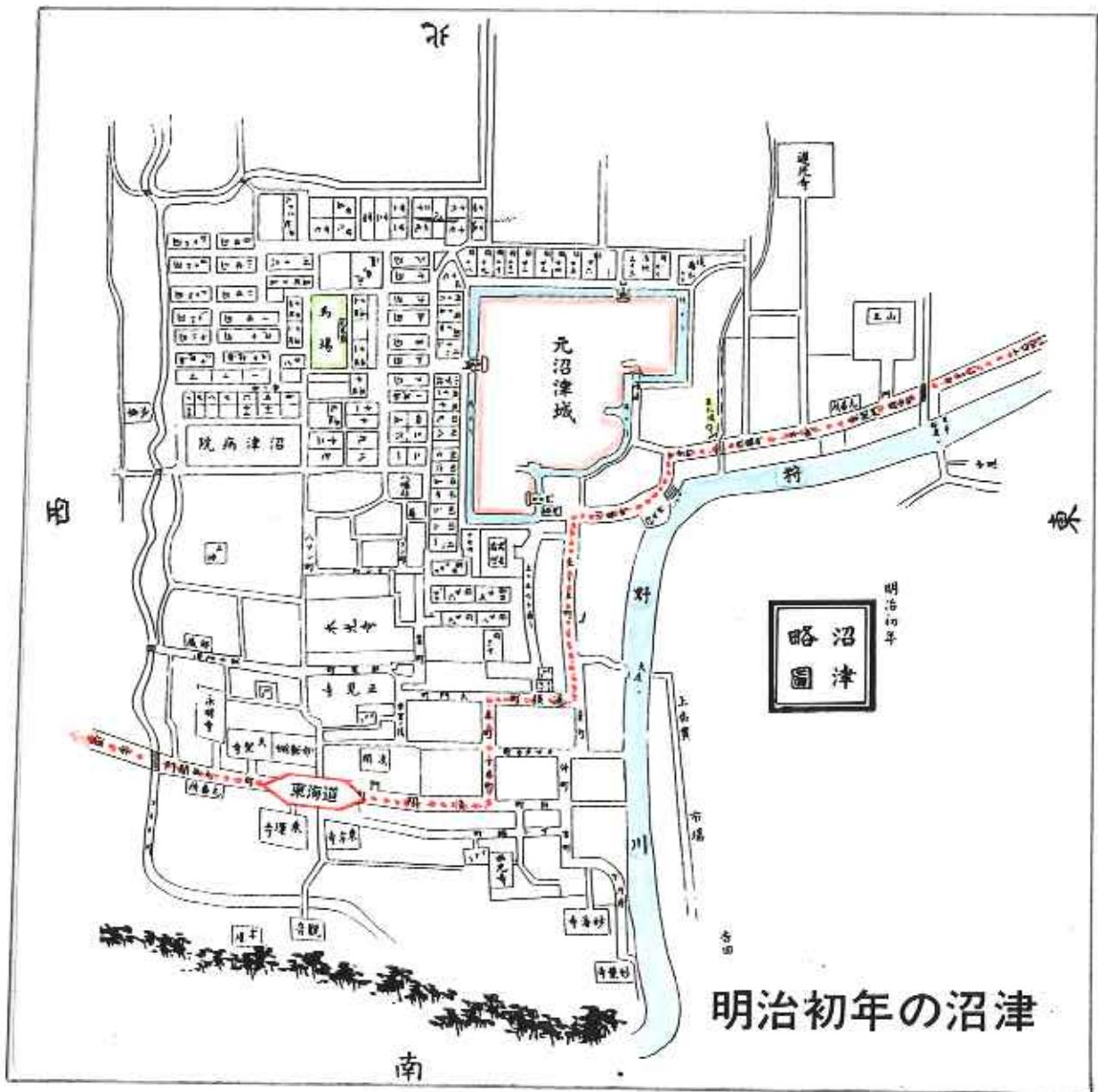
安永6年（1777）三河の水野忠友が新城を築き、8代90年明治まで続いた城下町。元は甲斐の武田勝頼の築いた三枚城。



江戸時代の沼津城



沼津城の現在との対比図



明治初年の沼津

『図説 沼津の歴史』

# 12 『沼津宿』

水野氏五万石の城下町で、狩野川河口の湊町



**本陣** 3軒 3軒あった本陣の内、下本町にあった間宮本陣の跡で今は駐車場になっていて何も標識も残っていない。



沼津の中心地本町 本陣は街道の左側に2軒、この先の右側に1軒あった。



沼津宿の標識 三島宿と次の原宿の方向が出ている。



J R 沼津駅



沼津城の石垣 古城は武田勝頼によって築かれ三枚橋城といった。江戸時代に入り水野家が城主となり8代約90年程続いた。

宿内人口

5346人

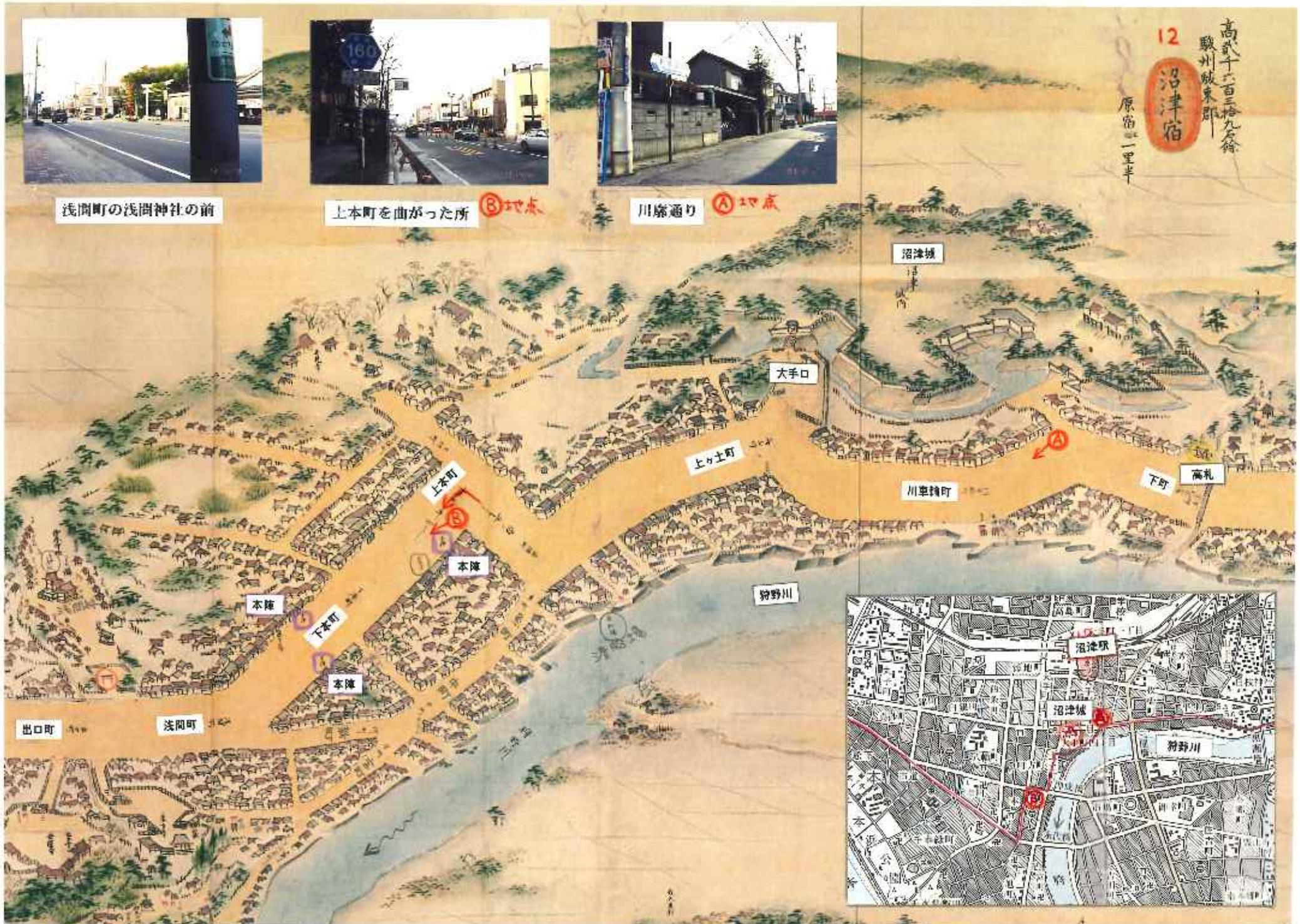
総家数

1234軒

旅籠

55軒

大18軒  
中21軒  
小16軒





沼津藩領境傍示杭

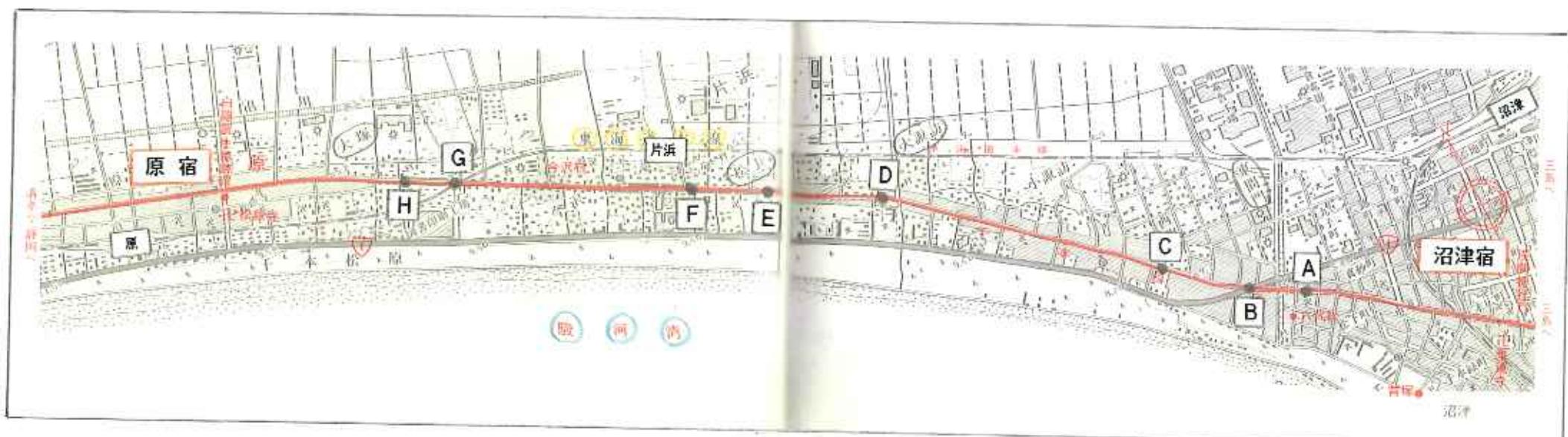
沼津城主水野家の領域を示す石標で、ここから東が領地だった。下半分がなく「從是東沼津領」と書かれていて、高さは2.1mあったとある。



旧東海道は右側の道をゆく。左は千本街道で海に近く、千本松原がある。



沼津宿を出て、昔の東間門村に入る。



『今昔東海道独案内』



原宿に入る手前の旧道。



この先右側がJR片浜駅。



D 富士急の大諏訪のバス停。



大塚宿の入口大塚。ここから原宿に入る。



東海道線の踏切を渡る。



昔の松長村の街道をゆく。

# 13 原宿



**本陣** 1軒  
**脇本陣** 0軒  
浅間神社の向い側の西町にあった渡辺本陣の玄関が今は下の松陰寺に移されている。



**松陰寺** 鎌倉時代中期の弘安年間（1278）の創建。禅宗の寺で白隱禪師にまつわる話が多い。



真直ぐな道が続く原宿の町並み。  
この先の左が原駅。



J R 原駅



宿の中央に浅間神社があり原宿の標識が立っている。

宿内人口

1939人

総家数

398軒

旅籠

25軒

大軒  
中軒  
小軒

0  
4  
11





富士急行のバス停  
東一本松

浮島ヶ原越しに富士を  
望む。季節は12月

江戸初期この土地で生まれた  
禪宗松蔭寺の僧侶「白隱」の  
名の酒を充てている。

宿の中心部





『東海道分間延絵図』に描かれている富士の絵



元吉原宿 今井東町。ここが江戸初期の吉原宿で海に近く津波や砂の被害が多く、天和2年（1682）現在の所へ移された。



東海道線の踏切を渡り、線路にそって歩くと右側に東田子浦駅がある。



原宿を出ると「桃里」という名のバス停がある。地名にもなっている。



広重の名勝左富士の絵

普通は富士山は街道の右側に見えるのに  
ここだけ左に見える場所。昔の依田橋村。



左富士のバス停

上の広重の絵の松並木の松が  
1本だけ残っている。  
平成9年12月21日撮影

## 吉原宿周辺

2万5千分の1の地図

